

〈カーボンニュートラルについて〉

カーボンニュートラルとは、何かを生産したり一連の人為的活動を行った際に排出される二酸化炭素と吸収される二酸化炭素が同じ量である、という概念です。

2020年10月に行われた菅総理の所信表明演説にて、「我が国は2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、即ち2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す事をここに宣言致します。」と述べています。

ではなぜカーボンニュートラルの実現を目指しているのでしょうか？

それは、皆さんもご存じの通り地球温暖化への対応が近々の課題である事に加え、カーボンニュートラルへの挑戦が次の成長の原動力に繋がるからです。

カーボンニュートラルへの挑戦は、世界のグリーン産業をけん引し、日本が掲げる「経済と環境の好循環」を生み出すカギになると期待されているのです。

「2050年までに達成」という目標は大変困難な課題です。具体的にどのような対策が必要になるのでしょうか。

① 省エネルギー・エネルギー効率の向上

節電などエネルギー効率の高い製品にする事でCO2排出量を抑えます。

② 一定量のエネルギーを作る場合のCO2排出量の低減

再生可能エネルギーや原子力発電の利用といった電気の非化石化をすすめる事や、カーボンリサイクルを併用した火力発電を使用するなど、電源の脱炭素化が前提になる。

③ 産業、民生、運輸といった非電力部門の電化

非電力分野では、比較的CO2排出量を低減する事が難しいと言われています。電化を進めると共に電源の脱炭素化を行う事で、CO2排出量を小さくする事ができます。

④ ネガティブエミッション

植林を進めて、光合成に使われる大気中のCO2の吸収量を増やしたり、大気中に存在するCO2を回収して貯蓄する「ネガティブエミッション技術」を用いて、大気中のCO2を減少させる。

上記を組み合わせ、トータルでカーボンニュートラルを目指す事が重要です。

最後に各分野でカーボンニュートラルに向けどんな取り組みが行われているかをご紹介します。

電力部門では、再生エネルギーの導入拡大、水素発電やアンモニア発電における技術開発が進められています。

非電力部門では、産業分野において、機器のエネルギー源を電力にする「電化」の促進やバイオマスの活用。化石燃料を利用する産業では原料である石炭、石油、天然ガスの代替として水素を使用する事で低炭素化を図る技術の研究がすすめられています。

運輸の分野では電動自動車(EV)や燃料電池自動車(FCV)の導入拡大等がすすめられています。

2050年カーボンニュートラル達成の為には、既存の技術に加え、新しい技術を駆使して目標に近づけていく事が重要です。エネルギーを使う私たちもエネルギーを低炭素・脱炭素な物へと転換する意識を高めていく事が必要になるでしょう。